

長町界隅の歴史

ここ、長町には、加賀藩の八家（侍の最も高い階級であり、エリートで豊かな階層）である村井家と長家が屋敷を構えていました。「長町」という名前は、その名前に「長い」という文字を使う長家から来ているという説があります。

江戸時代（1603—1867）とその後にわたり、長町には深刻な火災被害はありませんでした。このために、長町は珍しいほどよい状態で保存されています。現在、この地域には近代的な住宅もありますが、狭い通りや、今も使われている用水、土壁、長屋門（長屋形式の門）などは、古い時代の街並みが残っています。1868年に始まった近代化によって、封建時代の階級制が廃止され、長町は全ての住民が住める場所として開放されましたが、現在も侍の屋敷があった頃の雰囲気が残っています。

訪問者は、長町の様々な場所を訪れて、侍の生活の詳細を知ることができます。高田家は、中級武士である「平士」と彼らの奉公人である「仲間」の生活に関する展示をしています。また、金沢市足軽資料館もあり、最下層の侍である足軽（歩兵）のさまざまな側面を知ることができます。

長町を流れる「大野庄用水」は、金沢市の最古の用水と考えられています。いつできたのかは不明ですが、この用水は、物資の運搬のほか、侍屋敷の美しい回遊式庭園に水を供給するといった役割を担ってきました。